

# 温故創新

校長 吉田 隆

弥生三月、卒業・進級に向けて活気に満ちているはずの校舎に、主役であるはずの子どもたちの姿はありません。…。

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校の存在意義を痛感させられる事態となりました。

学校から引き離されている子どもたちに対して、教職員は何ができるのか？準備期間のない中、過去に経験したことのない遠隔による指導・支援を模索することになりました。

立てた方針は大きく次の三点です。

- ・ 子どもたちの健康・安全な生活を第一に考え支援する。
- ・ 未履修部分の家庭学習を可能な限り支援する。
- ・ ホームページ、配信メール、電話等で家庭連絡を迅速・丁寧に行う。

一つ目の健康で安全な生活については、ホームページを活用し、定期的子どもたちへメッセージを発信することや、学級担任からは子どもたちへ励ましの電話をすることにしました。

二つ目の学習支援は、ホームページ上に一週間単位で課題を提示し、算数については週末に答えを掲載。また、座学だけでなくリコーダーの練習や縄跳びなど実技教科の課題も含め、学校生活同様に興味が続くようバリエーシ

ョンを広げました。

前例のない事態です。このような支援の在り方が最善なのかは分かりません。しかし、休校が始まる三月二日中に方向性を示そうと、教職員一丸で経験と知恵を絞り創り出したものです。

未知の状況に対応する中で、一つの言葉が思い出されました。

「温故創新」

この言葉は、日本の疫学研究の第一人者、重松逸造氏の造語で、「古きをたずねて新しきパラダイム（概念、ものの見方・とらえ方）を創成せよ」という意味だそうです。

今、私たちが直面している未知の状況への対応は、「知新」に留まっただけは前へ進めません。創り出していく「創新」の姿勢が求められます。

未知の状況に直面しているのは、子どもたちや保護者の皆様も同様。忍耐と試行錯誤の日々が、この便りが届く時点でも続いていることでしょう。

この難局を共に乗り越える経験を、未来を創り出していく礎にしたいものです。

一年間の子どもたちの頑張りや成長、そして、巣立ちゆく六年生の飛躍を皆様と共に喜びたい、令和元年度の新潟小学校の教育活動を締めくくります。一年間有り難うございました。